

日赤おおいた No. 67



防災セミナーに取り組む住民の方々

Topics

地域の防災力向上のために

- 1 災害時に備えて
- 2 防災への備えを
- 3 ひとりでも多くの命を救うために

Volunteer Voice

献血ってどうして必要なの？
大分県で献血できる場所
赤十字クイズ



Instagram



YouTube



ホームページ

献血ってどうして必要なの？

病気やけがで血液が必要な患者さんは、健康な人の血液を輸血して治療する必要があります。その輸血に欠かせないのが「献血」です。

献血とは、輸血を受ける患者さんのために、自分の血液を無償で提供することです。



人工的に造れない！

現代は、医療技術がどんどん進歩しています。しかし、血液はいまだに人工的に造ることができません。だから、「献血」でたくさんの人から血液を集めるしかないので。

長期保存ができない！

血液は生きた細胞の集まりなので、長い間保存ができません。(特に血小板は採血後6日間)いつでも患者さんに血液を届けられるように、毎日新しい血液を確保しなくてはなりません。

1日約3千人！

何の数字だと思いますか？

実は、輸血を受けている患者さんの数なんです。毎日、こんなに多くの患者さんが、血液を必要としています。

最多はがん治療！

輸血はどういう時に使われるのでしょうか？

多くはがん治療で、約40%を占めます。

このような病気の治療で、血液は常に必要とされています。

大分県で献血できる場所



献血ルームわったん (トキハわさだタウン 3街区2階)

受付日 年中無休

(12月31日・1月1日は除く)

受付時間等は「**献血 わったん**」で検索！

◎ドリンクバー、無料Wi-Fi、
漫画・雑誌類等あります！



献血バス

献血バススケジュールは
「**大分 献血バス**」で検索



献血できる年齢や体重等について
「**献血基準**」で検索！



応募方法

下記の1~4をご記入のうえ、10/1(水)必着で、
郵便・FAX・またはWEBからご回答ください。

1. クイズのこたえ
2. 氏名・年齢・郵便番号・住所・電話番号
3. 本誌へのご意見・ご感想
4. 今後掲載してほしい内容

郵送 〒870-0033 大分市千代町2丁目3番31号
日本赤十字社大分県支部
事業推進課「日赤おおいた」クイズ係

FAX 097-533-6795

WEB 右の二次元コードから
ご応募ください。



赤十字クイズ



日赤大分県支部では、命を守るための
各種講習を実施しています。令和
6年度はいったい何人が受講したで
しょう？

1. 26人
2. 121人
3. 10,757人

ヒント 日赤おおいたを
よく読んでみよう！



正解者の中から抽選で
ハートちゃんスポーツタオル
をプレゼント！ 10/1(水)まで

※当選者の発表は、発送をもってかえさせて
いただきます。

1 災害時に備えて

日赤大分県支部では、災害時に備え救援物資を配備しています。緊急セット・安眠セット・毛布・タオルケット・バスタオル・タオル・ブルーシートを備蓄していて、災害時には被災された方へ迅速に届けられます。

昨年度は台風10号の影響による床上浸水や火事などの被害を受けた14市357世帯722人の被災者へ救援物資を配分しました。

緊急セット

バッグの中に、携帯ラジオ・懐中電灯・歯ブラシなどの緊急時に必要な生活用品等が入っています。



安眠セット

避難所でもぐっすり眠れるように、目隠し・耳栓・キャンピングマット等を用意しています。



3 ひとりでも多くの命を救うために

日赤大分県支部では、救急法・幼児安全法・水上安全法・健康生活支援講習を実施しており、令和6年度は延べ10,757人が受講しました。

正しい知識はいざという時に自分の命だけではなく、家族や友人など大切な人の命を救うカギにもなります。

救急法

日常生活における事故防止や手当の基本、胸骨圧迫や人工呼吸の方法、AED（自動体外式除細動器）を用いた電気ショック等についての知識と技術を習得できます。



水上安全法

安全に水と親しむための、事故防止や泳ぎの基本と自己保全、水の事故に遭った際の救助や手当の方法などの知識と技術を習得できます。



地域の防災力向上のために

2 防災への備えを

いつ発生するか分からない災害に備え、人々の「自助」「共助」の力を育む防災教育の一環として、日赤大分県支部では防災セミナーを実施しています。

地震・津波・大雨に備えた防災プログラムや、ひなんじょたいけん（避難所での出来事を体験するカードゲーム）、非常炊き出し等で災害に備える方法を幅広く学べます。

詳しいプログラムは大分県支部のHPを見てね！



ボランティアボイス Volunteer Voice



いち碗茶
赤十字ボランティア委員長
安藤 道子さん

いち碗茶赤十字ボランティア発足時から精力的に活動されている安藤委員長。どのような思いで赤十字ボランティアを続けているのか取材しました。

Q どんな活動をしていますか。

A 時季折々の草花を活け、夏には風鈴等で季節を感じてもらいながら、お菓子といち碗の抹茶を差し上げます。ほっとしていただく時間を一緒に持つことを目的とし、赤十字のイベント参加や赤十字の働きを紹介しながら、学童クラブや高齢者施設で活動しています。

Q 活動を続けていてよかったこと

A 茶道と聞くと敷居が高く、構えてしまうと思います。高齢者施設でデイケアの方々に抹茶を差し上げることになり、途中から「入所者の方にも」と申し出がありました。皆さん「美味しい」と笑顔で言ってくださり、私達も「良かった」と元気をもらえますので、笑顔の連鎖を広げたいと考えています。

Q いち碗茶ボランティアを始めたきっかけは。

A 茶道を通して、日赤ボランティアをしないかと知人から誘われました。体力的活動は無理でも、お茶を差し上げることはできるかもしれないと思い、2001年に、表千家で学ぶ者、裏千家で学ぶ者、茶道に関わりがない者の8名で立ち上げました。

Q 赤十字ボランティアに参加して知ったこと。

A 活動から数年たって日赤ボランティア信条「すべての人々のしあわせをねがい、陰の力となって人びとに奉仕する。」「常にくふうして人々のために、よりよい奉仕ができよう努める。」「身近な奉仕をひろげ、すべての人びとと手をつないで、世界の平和につくす。」を知りました。この信条は我々の活動の目標そのもので、仲間と継続の意味を確信しました。